

国と国との助け合い

沖縄県立首里高等学校 一年 ^{なかにし}仲西 ^{ゆうな}由菜

私は幼い頃から人を助ける仕事に興味があり、今では国境を超えたボランティア活動や国際社会といったものに興味がある。そんな私は今年、受験勉強まっただ中に見たトルコ・シリア地震の救助活動のニュースが今でもとても印象に残っている。映像には小さい子供が「痛い」と叫びながら治療を受けている様子が流れ、「日本はいちはやく救助チームをトルコ・シリアに派遣した」と報道されていた。私はこれを見て、こんな遠くの国まで人を助けに行つてすごいなと思い、そのことについて広い視野で見ようとしていなかった。しかし、こうやって税についての作文を書くうえで税について調べていくうちに、今まで気にもとめていなかった「経済協力費」という税金の存在について知ることができた。経済協力費は開発途上国との対話を進めながら、経済協力をを行い、自立を支援していくということである。そしてこの救助チームは政府開発援助、通称ODAの活動によって派遣され、それらも経済協力費という私達が払っている税金があつてこそ成りなっているということを知ることが出来た。また同時にこの救助チームは私達が払った税金からトルコの人々を助けることが出来るという事実には驚きと共にすばらしさを感じる事が出来た。なぜなら、今では開発途上国に手を差し伸べる側である日本も、戦後や東日本大震災で大きな損害を受けたときには他の国々からの数多くの支援を受けて、そこから成長してきたからである。私達が払っている税金で他の国々を助け、そして他の国の国民が払ってきた税金で私達も助けられている。これらは税金を通じて国と国が助け合っている。いわば税金が国と国との助け合いをうみ、私達も税金を払って他の国を支えているといえる。もし、税金というものが存在しなかったら私達の生活は水も道も整備されていないため厳しく過酷なものになり、困っている国も誰からの助けもないまま国の状態は悪化し続け世界的な負の連鎖が続いていただろう。私達が払っている税金は自分の身の回り、身近なことに使われるだけでなく、国境を越えて困っている国を助けることにも使われている。それは一見して私達に回ってくる利益はないように思える。しかし、世界中の国々がやることによって自分達の国が自分達だけでは解決できない困ったことにぶつかってしまったら周りの国が助ける手を差し伸べてくれる。つまり助け合いが生まれるのである。だから、私も私達が払っている税金はどういうことに使われているのか、これからは今回みたいに税金について考える時間をつくり、もっと視野を広げて色々なことについて新しい発見をみつけていきたい。